

# 社会人基礎力協議会News



第7号 2021年7月15日発行

## 1 一般社団法人 社会人基礎力協議会 2021年度活動方針

代表理事 拓殖大学 教授 長尾素子

昨年度に引き続き、代表理事を務めます長尾でございます。日頃より社会人基礎力事業にご支援、ご協力誠にありがとうございます。昨年度は、コロナ禍により、これまで行ってきた活動を大幅に見直さざるを得ませんでした。それでもオンラインによるグランプリ、リカレント月例フォーラム、研究委員会主催の勉強会等、を開催できたことは、大変有難く、また皆様のご協力の賜物と感じております。今年度は、昨年度からの継続事業に加え、8月に年次大会を開催することとなりました。産官学による「社会人基礎力」の育成に向けて、情報発信、意見交換の場となれば幸いです。企業様、自治体様との連携事業も増えてまいりました。コロナ禍であるからこそ求められる「社会人基礎力」について、今年度も学びを止めずに活動し続けてまいります。なお、理事会に新メンバー3名が加わり、右記10名の理事による新体制でスタートいたしました。今年度も引き続き、よろしく願い申し上げます（★マークが新任理事）。

代表理事 拓殖大学	長尾 素子
★理事・事務局長 国家資格キャリアコンサルタント	別所 俊彦
理事・グランプリ委員会委員長 公立諏訪東京理科大学	市川 純章
理事・リカレント委員会委員長 専修大学	芝原 脩次
理事・研究委員会 委員長 城西大学	栗田るみ子
★理事・グランプリ委員会 副委員長 東京家政学院大学	金森 敏
★理事・リカレント委員会 副委員長・副事務局長 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン (株)	渡邊 明男
理事・研究委員会 副委員長 成蹊大学	山崎 紅
理事・副事務局長 SMBCコンシューマーファイナンス (株)	三瓶 剛史
理事 拓殖大学 就職キャリアセンター	来田 健

## 2 2021年度 各委員会 事業概要

各委員会委員長

### 協議会全体イベント

今年度、初の試みとして2021年8月20日「2021年度 社会人基礎力協議会 年次大会」を開催します。有識者によるご講演やパネルディスカッションなどを予定しております。詳細は協議会ホームページよりご案内しますので、ぜひご参加ください。

### グランプリ委員会 主な事業計画とスケジュール (予定)

今年度も「社会人基礎力育成グランプリ」の企画・運営を行います。2020年度大会同様に、オンライン開催を予定しております。

<スケジュール>

- 2021年6月 社会人基礎力育成グランプリ 応募要項公開
- 2021年11月 地区予選出場校募集開始 (11/1予定)
- 2021年1月 地区予選出場校募集締切 (1/11予定)
- 2021年2月中旬 各地区予選大会開催 (各地区の体制や開催日程については、追って協議会HPよりご案内します)
- 2021年2月下旬～3月中旬 全国大会開催 (同じく、決定次第、協議会HPよりご案内します)

### 研究委員会 主な事業計画とスケジュール (予定)

年に3回の研究会により社会人基礎力強化に関する研究を進めるとともに、有識者による社会人基礎力強化に関する研究論文の協議会機関誌発行、会員向けニュースレター発行を予定しております。

<スケジュール>

- 2021年6月 協議会機関誌『社会人基礎力研究』投稿論文募集開始
- 2021年7月 第1回研究会「主体的な行動を発揮させる活動」(オンライン・7/13)、ニュースレター第7号発行
- 2021年10月 第2回研究会「課題発見力について考える」(オンライン・10/26)
- 2021年12月 協議会機関誌『社会人基礎力研究』投稿論文募集締切 (12/1)、ニュースレター第8号発行
- 2022年1月 第3回研究会 (テーマ未定)
- 2022年3月 協議会機関誌『社会人基礎力研究』発行、ニュースレター第9号発行

### リカレント委員会 主な事業計画とスケジュール (予定)

2か月に1回のフォーラム (8月は年次大会として協議会全体で開催) による啓発活動を継続するとともに、公共団体、各種協会・団体、協賛企業との連携を強化して、人生100年時代の社会人基礎力強化について積極的に取り組んでまいります。

<スケジュール>

- 2021年4月 フォーラム 東京工業大学名誉教授 田辺孝二氏 「『未来を創る思考』と社会人基礎力」(オンライン・4/24)
- 2021年6月 フォーラム 日本マイクロソフト株式会社 宮崎翔太氏 「withコロナ時代における働き方と学び方」(オンライン・6/26)
- 2021年8月 年次大会 テーマ「アフターコロナの社会人基礎力」(オンライン・8/20)
- 2021年10月 フォーラム 株式会社松田太一代表取締役 松田太一氏 (オンライン・10/23予定)
- 2021年12月 フォーラム iU情報経営イノベーション専門職大学教授 久米信行氏 (オンライン・12/18予定)
- 2022年2月 フォーラム 講師未定 (オンライン・2/26予定)

阿南工業高等専門学校は、5年一貫教育により実践的技術者を養成する国立高等教育機関として、徳島県はもとより日本全国に優秀なエンジニアを輩出しています。2020年度社会人基礎力グランプリ全国大会出場校（「人生100年時代の社会人基礎力準大賞」及び「審査員特別賞」受賞）です。

### 社会人基礎力強化を意識した授業に取り組んだ背景

国際競争が激しくなる現代社会で活躍できる人材の育成を目指して、高等教育機関においてもこれまでの専門知識や技能の強化に加えて、社会人基礎力、学士力、分野横断的能力（国立高等専門学校機構が技術者が備えるべき能力として示したもので、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力など）の重要性が増えています。グローバルな調査であるOECDのPISA（生徒の学習到達度調査）をみても、2021以降、メタコンピテンシー、つまり、変化に対応し新たな能力を自ら学習していく能力や行動特性を重視する傾向にあります。

### 「電気技術イノベーション実習」授業を考案した理由

そうした変化を受けて、日本の教育現場でもアクティブラーニングの導入が進んでいます。当校でも通常講義のアクティブラーニング化、PBL（課題解決型学習）や学生参加型授業などにいち早く取り組みましたが、より実践的でハイレベルの体験学習が提供できないかという思いから考案したのが、学生が仮想的な社会人として取り組む「電気技術イノベーション実習」です。

### 「電気技術イノベーション実習」では何が学べるのか？

平成30年度より2～5年生対象に導入し、起業・就業体験を通じて社会人基礎力（コンピテンシー）の育成を目指しています。2～3年生が社員、4年生が起業者（社長）、5年生は仮想通貨を持つ出資者および業務依頼者の立場で、会社経営を体験します。会社設立や経営の基礎知識、新製品開発や業務開拓、電気技術における最先端技術などを学ぶとともに、社会人としての主体的な行動やチームで働くためのスキルが自然と身に付きます。会社経営の体験により、会社側の視点で人を雇うということの意味を知り、社員に求める能力を考えるのも貴重な体験です。5年生が実際の就職活動をする際にも、大いに役立っています。

### 授業運営における工夫と今後の課題

特に重視しているのは、学生がやってみたいと思うことをとにかくやってみる、失敗を恐れず挑戦することの奨励です。実際、この授業のなかで、学生は多くの失敗を経験します。バーチャル通貨の導入によって、利益が出なければ給料など必要経費が払えなくなって倒産や失業もあり得るので、会社経営の厳しさを知ります。授業成果の分析によると、社長を経験した学生のコンピテンシー向上が顕著であること、社員（学生）同士のピアサポートが活性化したのも特筆すべき点です。今後、実習内容については、より現実に近いかたちで社会人体験をするために、企業と地域の連携、国や自治体との関係（税金の導入など）を取り入れるなどが考えられます。教員側は、学生が自ら考え、行動し、振り返って課題を発見・解決していく場をいかに作るかが課題です。



### Profile

阿南工業高等専門学校 創造技術工学科 教授。専門は、電磁波工学および通信工学。電磁波解析、電磁波観測による地震予測などの技術、eスポーツ関連技術への応用などに取り組んでいる。



1. 4年生が起業して会社説明会を行う
2. 希望する会社のオンライン面接に臨む2年生
3. 会社側の立場で面接官を体験する3年生
4. 会社の業務に取り組む－レーザー点検業務を行う
5. 会社の業務に取り組む－eスポーツ体験会を行う（障害者支援施設訪問の様子）
6. 社内会議－事業戦略を練ったり、プロダクトの企画を話し合う

京都芸術大学は、13学科23コースの通学課程に加えて、4学科15コースの通信教育課程を設置。18歳から96歳の1万4000人の学生を抱える日本最大の芸術大学です。1991年に開学した後発の芸術大学として、これまでにない新たな芸術教育のスタンダードの構築を目指し、様々なチャレンジを続けています。2020年度社会人基礎力育成グランプリ全国大会出場校です。

### 芸術教育の社会実装を目指した教育改革

本学は、建学の理念に「京都文藝復興」「芸術立国」を掲げ、「社会を変革する新しい価値を発信し続ける人材の育成」を目指して教育改革に取り組んできました。「10年に一人の逸材」を育てる教育ではなく、学生一人一人が身のまわりの課題と向き合い、社会のより良い変革に寄与することができる力を身につける教育を推進しています。2017年からは中期計画として「芸術教育の社会実装」を掲げて取り組んでいます。芸術教育の社会実装とは、「①本質を見抜く観察力を持って社会の抱える課題を把握する→②人々の幸福な体験価値を提供するアイデアを考案する→③アイデアを早期に具現化する→④社会に公開し評価を得る→⑤フィードバックを基に改善を繰り返しアウトプットの質を高める」教育プロセスです。それを具体的に実現する施策として、企業や自治体からの受託研究・制作を年間100本以上実施しており、学部・学科・学年を問わず、希望する全ての学生が参加できる仕組みを構築してきました。

### 社会人基礎力育成に取り組んだ背景

大学進学者の3%しかいない芸術系学部の進学者は、社会的には少数派です。そのため、今なお多くの偏見に晒されています。「好きなことを自由にやっている」「自己表現が長けている一方で、社会性が乏しい」「個人ワークは好きだが、チームで取り組むのは苦手」など、実際に高校の教員や保護者、企業や自治体の方から、そう言う印象が語られることも多くあります。そうした実情を真摯に受け止め、「芸術を学ぶ学生」の社会的印象を大きく書き換えるには、具体的な実績とそのプロセスの構造化が必要だと考えました。

### 社会人基礎力育成に向けて意識していること

「芸術教育の社会実装」は、芸術を学ぶことを通して身につけた「観察力」（先入観ではなく、多角的な視点で物事を捉える視点）から始まります。まず社会の課題を単層的ではなく、複層的に捉えることの重要性を繰り返し指導しています。その上で、学生の主体性や好奇心を喚起するために必要な「感動の喜び」と「習熟の喜び」をどのように提供するかが教員の役割だと考えています。そうしたベースをしっかりと整えた上で、最も大切なことは、「失敗を恐れない組織風土」の形成です。学生たちがこれまで受けてきた教育は、「間違えること、失敗すること」を、「否」とされてきた教育がほとんどです。そのため、入学時は、多くの学生が極度に失敗を恐れています。発言できない、質問できない、途中経過を人に見せることができない学生が多くなります。そのため、私たちは「Provotype」という言葉を推奨し、早期に試作（prototyping）を出すことで、他者や自分を刺激し、アイデアを引き出す（provocation）ことの重要性を徹底して伝えています。10点でも20点でも早期に試作を共有することから、社会人基礎力育成グランプリでも発表した多くのアウトプットが生まれました。



### Profile

京都芸術大学情報デザイン学科クロスステックデザインコース准教授。京都芸術大学スタートアップ支援室長。株式会社クロスステック・マネジメント取締役。「芸術教育の社会実装」を掲げ、企業や自治体などの課題をアートやデザインで解決することを目指している。



1. オンラインから新たなヒントを得る
2. 海外の大学との共同研究
3. 企業へのプレゼンテーション

4. 10点の試作を早期に生み出す - 「Provotype」を実践して「京都100年かゝるた」の試作に取り組む学生
5. 完成した「京都100年かゝるた」を協力店に手渡す
6. オンラインワークショップの挑戦

